「社会塩か法人東古米の家 総括貸供対照書」

平成22年3月31日現在 (単位: 千P) 資産の部 負債の部)
科 目 金額 科 目 金額	
流動資産 398,012 流動負債 88,95	
現金預金 280,015 未 払 金 58,019	1
未 収 金 87,710 預 り 金 8,55	:
立 替 金 406 経理区分間借入金 15,61-	
前 払 金 3,133 会計単位間借入金 6,76	
経理区分間貸付金 15,614	
会計単位間貸付金 6,761	
商品·製品 3,150	
原 材 料 1,220	
固定資産 2,053,765 固定負債 121,10	
基本財産 1,152,647 設備資金借入金 61,44	
土 地 3,630 退職給与引当金 59,66	
建 物 1,149,016 負債の部合計 210,05	
その他の固定資産 901,118 純資産の部	
建 物 5 基 本 金 418,83	ി
機 械 及 び 装 置 14,006 国庫補助金等特別積立金 484,76	
車 輌 運 搬 具 606 その他の積立金 796,533	- J.
器 具 及 び 備 品 28,577 移行時特別積立金 116,70	一
長期貸付金 600 人件費積立金 233,50	貴
移行時特別積立預金 116,707 建設積立金 66,50	を
措置施設繰越特定預金 272,000 施設整備等積立金 271,86	さ
人件費積立預金 83,500 その他の積立金 102,50	1 +
建設積立特定預金 66,500 工賃変動積立金 2,46	ーテ
施設整備積立預金 149,860 設備整備等積立金 3,00	山 庙
その他の積立特定預金 102,500 次期繰越活動収支差額 541,59] 【2
工賃変動積立預金 2,465 次期繰越活動収支差額 541,59	3
設備備品等積立預金 3,000 (うち当期活動収支差額) 171,60	」も
その他の固定資産 60,789 純資産の部 合計 2,241,72	のご報告をさせて頂きます。
資産の部 合計 2,451,778 負債及び純資産の部合計 2,451,778	<u> </u>

脚注:減価償却費の累計額 985,580千円 注記:固定資産の減価償却の方法…定額法

【社会福祉法人 東京光の家 総括資金収支計算書】

(自) 平成21年4月1日 (至)平成22年3月31日	(単位:千円)
科目	金額
就労支援事業収入計	49,808
就労支援事業支出計	48,530
就労支援事業活動資金収支差額	1,278
経常活動及び福祉事業収入計	1,074,942
自立支援費等収入	521,077
利用料収入	2,107
措置費収入	191,383
私的契約利用料収入	57,052
補助事業等収入	7,005
経常経費補助金収入	248,196
寄付金収入	6,835
雑収入	31,618
借入金利息補助金収入	1,000
受取利息配当金収入	2,666
会計単位間繰入金収入	1,500
経理区分間繰入金収入	4,500
経常活動及び福祉事業支出計	910,545
人件費支出	663,858
事務費支出	97,074
事業費支出	142,611
借入金利息支出	1,000
経理区分間繰入金支出	4,500
会計単位間繰入金支出	1,500
経常活動福祉事業活動資金収支差額	164,397
施設整備等収入計(※賛助会寄付金含む)	28,867
施設整備等支出計	5,037
施設整備等資金収支差額	23,829
財務収入計	4,834
財務支出計	167,890
財務活動資金収支差額	△163,055
当期資金収支差額合計	26,449
当期末支払資金残高	304,688

礼申し上げる次第です。

鞭撻ご支援を賜り心から厚く御 格別なるご厚情のもとご指導ご 視覚障害者福祉事業全般に対し、

送り、

諸訓練に励みなが

立に向けて頑張っているところ

以下平成二一年度の事業状況

重ねて感謝申し上げます。

となりました。 という言葉が口の端にのぼる頃 はじめに 日頃は、私ども東京光の家 つの間にか

> れ微力ながらも社会的責任を果 て事業全体も滞り無く取り 皆様方のご援助 Ø お蔭をも 運ば

社会福祉法人・東京光の家

平

成

年度

【社会福祉法人 東京光の家 総括事業活動収支計算書】 (自) 平成21年4月1日 (至)平成22年3月31日 (単位:千円)

又

事業体施設で生活する利用

たすことができました。

ちも元気で明るく、

日

日を

科 目	金額
就労支援事業活動収入計	49,808
就労支援事業活動支出計	45,156
就労支援事業活動収支差額	4,652
事業活動及び福祉事業活動収入計	1,084,521
自立支援費等収入	521,077
利用料収入	2,107
措置費収入	191,383
私的契約利用料収入	57,052
補助事業等収入	7,005
経常経費補助金収入	248,196
寄付金収入	6,835
	28,347
国庫補助金等特別積立金取崩額(事業)	22,516
事業活動及び福祉事業活動支出計	946,322
人件費支出	663,858
事務費支出	86,595
事業費支出	142,611
減価償却費	46,048
引当金繰入	7,207
事業活動及び福祉事業活動収支差額	138,199
事業活動外収入計	9,666
事業活動外支出計	7,000
事業活動外収支差額	2,666
経常収支差額	145,517
特別収入計 (※賛助会寄付金含む)	28,867
特別支出計	2,778
特別収支差額	26,088
当期活動収支差額	171,606
前期繰越活動収支差額	521,855
当期末繰越活動収支差額	693,461
次期繰越活動収支差額	541,595

【光の家鍼灸マッサージホーム 資金収支計算書】

1,0-	20/20/20 1 2 2 2 11 - 2 2 4 TH.	N~1177-01	
	科目	金額	
	経常収入計	9,845	
	利用料収入	2,107	
	経常経費補助金収入	6,538	
	雑収入	1,171	
	受取利息配当金収入	29	
	経常支出計	7,726	
	人件費支出	5,464	
	事務費支出	1,988	
	事業費支出	273	
3	経常活動資金収支差額	2,118	
	施設整備等収入計	0	
	施設整備等支出計	0	
	施設整備等資金収支差額	0	
	財務収入計	0	
	財務支出計	1,900	
]	財務活動資金収支差額	△ 1,900	
当期	明資金収支差額合計	218	
当	明末支払資金残高	4,065	

【公益事業特別会計 資金収支計算書】 視覚障害者移動介護従事者養成研修事業

	科目		金額
		経常収入計	408
		雑収入	408
		経常支出計	146
		事務費支出	146
	絽	常活動資金収支差額	261
当	期	資金収支差額合計	261
=	期	末支払資金残高	1,568

各資金収支計算書会計期間:

(自)平成21年4月1日(至)平成22年3月31日 単位:千円(千円未満切捨)

0 (1))障害 四つであります 定障害者支援施設 定款に定める施設事業体は 家新生 者自立支援法による、 園 (生活介護定 施設名

光

実施しています

法

【光の家新生園 資金収支計算書】

Г	科目 金額		
		301.581	
		経常収入計 自立支援費等収入	,
			260,753
		補助事業等収入	2,799
		経常経費補助金収入	33,907
		寄付金収入	360
		雑収入	3,356
		受取利息配当金収入	403
		経常支出計	246,333
		人件費支出	184,944
		事務費支出	23,516
		事業費支出	35,872
		経理区分間繰入金支出	2,000
	経	常活動資金収支差額	55,248
		施設整備等収入計	5,418
		施設整備等支出計	559
	施	設整備等資金収支差額	4,858
		財務収入計	4,534
		財務支出計	60,000
	財	務活動資金収支差額	△ 55,465
当	期	資金収支差額合計	4,641
1	期	末支払資金残高	75,487

「火の東帯火国 次合同士計算事」

【元の家米元国 頁面収支訂	昇青』
科目	金額
就労支援事業収入計	49,808
就労支援事業支出計	48,530
就労支援事業活動資金収支差額	1,278
福祉事業収入計	318,845
自立支援費等収入	260,324
補助事業等収入	4,166
経常経費補助金収入	45,165
寄付金収入	312
雑収入	8,338
受取利息配当金収入	537
福祉事業支出計	273,503
人件費支出	199,880
事務費支出	27,853
事業費支出	44,269
会計単位間繰入金支出	1,500
福祉事業活動資金収支差額	45,342
施設整備等収入計	1,894
施設整備等支出計	405
施設整備等資金収支差額	1,489
財務収入計	0
財務支出計	41,500
財務活動資金収支差額	△ 41,500
当期資金収支差額合計	6,610

89.872

施設

名

の

家神愛園

定 施

生活保護法による救護

施設入所支援定員六〇名

就労継続支援B型定員一〇名

栄光園(生活介護定員七○名

④身体障

害者

福

祉

法

旧

ょ

光

0

八〇名

【法人太部 咨全収支計管書】

【公八个叫 貝亚狄又可异百】			
		科目	金額
		経常収入計	23,855
		補助事業等収入	39
		寄付金収入	5,829
		雑収入	11,280
		受取利息配当金収入	706
		会計単位間繰入金収入	1,500
		経理区分間繰入金収入	4,500
		経常支出計	22,496
		事務費支出	22,496
	紀	常活動資金収支差額	1,359
		施設整備等収入計	19,586
		施設整備等支出計	3,149
	旅	設整備等資金収支差額	16,437
		財務収入計	300
		財務支出計	15,500
	則	務活動資金収支差額	△ 15,200
7	期	資金収支差額合計	2,596
필	抈	末支払資金残高	59,372

【光の家神愛園 資金収支計算書】

科目	金額
経常収入計	420,405
措置費収入	191,383
事務費収入	172,313
事業費収入	19,069
私的契約利用料収入	57,052
経常経費補助金収入	162,585
寄付金収入	331
雑収入	7,064
雑収入(務)	6,329
雑収入 (業)	734
借入金利息補助金収入	1,000
受取利息配当金収入	989
経常支出計	360,338
人件費支出	273,568
事務費支出	21,074
事業費支出	62,196
借入金利息支出	1,000
経理区分間繰入金支出	2,500
経常活動資金収支差額	60,066
施設整備等収入計	1,968
施設整備等支出計	923
施設整備等資金収支差額	1,044
財務収入計	0
財務支出計	48,990
財務活動資金収支差額	△ 48,990
当期資金収支差額合計	12,121
当期末支払資金残高	74,321

総括的に結ぶ部門として総 e b 更に、右四つの施設を統 家鍼灸マッ 務 盲人ホ 医務課 全施設事業体 サージホー 1 4 • 施設名 食事課) iz

務

亘

る

当期末支払資金残高

ま 動 横 7 展 委員会・ 断 解決委員会等々) の専 ガ に貢献することを目的とし 祉 的 イ 教 組 地 育 域 F 門委員会 織体をも 福祉 安全衛生委員会 \wedge 研 修室 ル パ 1) では、 1 ĺ って活動 'n があります。 例 ビス振 養成事 視覚障 防 ずる .

次

期入所定員二名 施 <u>Ti.</u> 設 兀 入所 . 支援定員五 機 能 訓練定員六名 五名 短

②障害者自立支援法による、

障害者支援施設 施設名

についてご報告いたします。

以下各事業施設の活動状況等

四名を迎えて、五四名でスター

力が得られた。更に、

朗読ボラ

して、

東京都

の補助を受けて着

ンティアや外出

行事のヘルパー 地域との

工することが出来た。又、全国

指定・障害者支援施設 援と機能訓練、日中活動の機能 所支援と生活介護、 トした。その利用内容は 施設入所支 施設入

関係が深まっている。 などの協力も得られ、

光の家新生 園 訓 **に練のみといった様々なもので**

あった。又、法人内の利用者の 三.職員研修の充実

行った。

習生などの受け入れも積極的に や福祉系の大学・専門学校の実 各地の盲学校や民生委員の見学

の家新生園の利用者の多く 盲重複障害者の支援において

ニーズにも応えて、歩行訓練を 中心とした機能訓練を横断的に せないものである。今年度も自 は、職員の資質と専門性は欠か 指定・障害者支援施設

化も見られている。しかし、一 三〇・三歳となり、利用の長期 修会に参加し、幅広い知識を得 クリエーション講習会などの研 就労支援を生活の中心として、

目指し、生活支援を基本として、 人ひとりに対する支援の充実を 内部研修で共有し、利用者支援 ることができた。その内容は、 ともに利用者の自立と社会活動 働くことの尊さと喜びを知ると

害特性に考慮した一人ひとりの

の遅れが多く見られる。 しく、精神面・行動面での発達 併せ持つことから社会経験に乏

その障

は視覚障害に加え、

他の障害を

実施した。利用者の平均年齢は、

閉症・てんかん・感覚統合

こレ

光の家栄光園

業訓練を実施した。この個別支 生活訓練や行動訓練、そして作 四、保護者との繋がり に生かすことが出来た。 た。昨年新事業体系に移行した の参加 を目標に支援してき

機能の維持や生活機能の向上に 援の充実は目標を達成し、身体 報告や利用契約の更新及び個別 支援計画の説明を実施し、 五月には、重要事項説明書の 保護 に改善され現在では、移行前よ 減少等、戸惑いもあったが徐々 が、当初は日中活動の職員数の

れ、これまで以上に幅広い事業 二、地域との交流 つながった。

を展開した。

活介護を中心に短期入所も受入 施設として、施設入所支援と生 は本格的な自立支援法下の支援 た支援を行った。平成二一年度 支援計画を策定し、能力に応じ

一、利用者支援

立千葉盲学校より男性一名、横 入れた。その他、東京都立文 訓練の通所者第一号として迎え 王子盲学校より女性一名を機能 京盲学校より女性一名、千葉県 平成二一年度は、東京都立八 との交流行事が行われ、 覚障害や社会福祉を学ぶ機会に は様々な体験の場を提供し、視 協力した。又、例年同様に地域

浜訓盲学院より男性

一名の計

方々の参加やボランティアの協

管取り換え工事を大規模修繕と

でスタートした。

(3)

今年度は、老朽化する給排水

地域の

五、その他

地域の小学校が「福祉」をテー

要望を聞くことができた。八月 者との個別面接を設けることで り日中活動の職員数が上回るま でになった。また、通所者への

とが恒例となり、東京光の家で マに総合的な学習を計画するこ 目的について報告し、支援状況 と一二月には、個人情報の使用 の報告を書面 対応として、地域支援係を設け てさまざまな問題について

の同意を得ることが出来た。 にて行い、保護者 支援をする体制を作った。 、利用者支援

平成二一年度は入所者が六一 通所者が一七名の計七八名

2010.7.31

でサー

ビスを利用する仕組みが 新生園で行っている機

を家族に知っていただく目的で

利用者の生活、

施設の状況

用

品が順調だったことによる。

的障害、

精神障害等他の障害を

二、地域との交流

恒例の地域との交流行事や正

視覚障害に加え、アルコール依

併せ持つ盲重複障害者、

更には

祭りや正秋バンドの活動では多

かる」となっている。

支えられ、感謝である。

特に夏

指導を行い、その自立更生をは

秋バンド、

栄光園の「ショップ

存症や難病により、

日々の生活

出来た。

三、職員研修の充実

<

の地域の皆様と交流する事が

部研修の充実に力を入れてきた。

多くの刺激を受けた。 四の外部研修に職員を派

一年度は年度途中で五名の

員

の資質向上を図った。

て頂いた。

践力を高める意図を持っ

全般に亘る心得について指導し 指導講師に三療の技術及び接客

研修を行う等、

今年度はより実

八〇名でスタートした平成

利用者支援

門性の向上を目指

Ļ

斐ある生活が送れるよう努めて

施設が憩いの家となり、

生き甲

心に、多くの外部研修に積極的

区救護施設協議会の研修会を中

全国救護施設協議会や関東地

たため鍼の件数が大幅に減少

マッサージと合わせても

性四名が施術業務に従事した。

平成二一年度は男性三名、

施術実績は、

鍼担当者が退所し

に職員を派遣するとともに、

セ

件)となり施術合計金額は減少 三四三五件(前年度三八一〇

した。施術者の資質向上のため、

クション別に課題を持って内部

三、職員研修の充実

なつながりを持つことができた。 機会を通して地域の人々と自然 アガペ」の営業等、さまざまな

とする者等、多岐に亘る。

そのような利用者にとって、

で、

きめ細かなサポートを必要

きた。選挙公報の大口注文を始

○万円を大きく上回ることがで

齢による機能低下で生活の色々

光の家神愛園の入所者は、

加

者を受け入れる事が出来た。

二、地域との交流

今年度も多くのボランティア

な場面で支援を必要とする高齢

の盲人や、視覚障害に加え、

知

の協力により、

神愛園の活動は

者に利用させ、

必要な技術等の

または雇用されることの困難な する視覚障害者であって、 ○万円を超え、

就労支援は、

売上げが四一〇 目標額の三七五

施することができるようになっ

支援の幅が広がった。

げたいと希望する利用者に対し 歩行訓練を受けて活動範囲を広 能訓練を利用できるようになり、

換を行った。

救護施設

光の家神愛園

人の希望を叶えることが出来た。 施設の嘱託医の協力も得て、本

方で同数の五名の新規利

闬

盲人ホームの

自 的 ば

あんま

鍼師、

または灸師免許を有

本人の強い希望もあり、

主治医、

盲人ホーム

光の家鍼灸

マッサージホーム

開催し施設の状況報告や意見交

三回送り、年二回の保護者会を

で、

末期癌のため、主治医から

は入院を勧められたが、「最後ま

年も全保護者に送った。

で光の家で過ごしたい」という

栄光園便り」「ミニ通信

ごを計

あった頃から入所されていた方

しっかりした歩行訓練を実

めとする点字出版関連と各種製

の一名は東京光の家が杉並 一区に

者が天に召された。 その内

一二月に保護者会を開

八月、

(4)

2010.7.31

に加え、写真入りのお便りを今 又、年二回の施設便り

催した。